



面河山岳博物館 開館35周年記念シンポジウム

小規模博物館の未来を考える

～なぜ地域に博物館は必要なのか～

博物館はなぜ地域に必要なのか。限られた人員や予算のなかで、どのような価値を地域社会にもたらしすることができるのか。そして人口減少社会において、小規模博物館はどのような未来を描くことができるのか。

このシンポジウムでは博物館政策や全国・愛媛県内の小規模博物館の活動、持続的な経営などの事例を学びながら、小規模博物館の存在意義とこれからの可能性について考えます。また、その議論を通じて、博物館が地域の自然や文化の継承、学びや交流の創出などにどのように関わり得るのかを見つめ直し、地域と博物館の未来をともに考える機会とします。

①基調講演

博物館政策と地域社会における小規模博物館の役割
中尾智行 〈文化庁参事官(文化拠点担当) 博物館支援調査官〉

②事例発表

小さな町の(存在感の)大きな博物館
高田みちよ 〈小規模ミュージアムネットワーク 事務局〉

地域とともに歩みたい愛媛の博物館の現状
高畠麻子 〈高畠華育大正ロマン館館長〉

面河山岳博物館35年の歩みとこれから
矢野真志 〈面河山岳博物館学芸員(課長補佐)〉

③総合討論

人口減少社会における小規模博物館の役割と未来
進行：井口 梓 〈愛媛大学地域共創研究センター長 教授〉

2026.9.26 [土] 13:00-16:45

場 所 久万高原町久万町民館ホール

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万188番地

参加費 無料

定 員 80人(先着)

申 込 Tel. 0892-58-2130

お電話もしくは右のQRコードで
お申し込み下さい。
先着人数に達し次第、
募集を締め切らせていただきます。

